

<事務局>平成 27 年度上期：資格登録の先生方 3 名に御寄稿いただき紹介します。

### 【活用事例】 上級内部統制実務士

株式会社アスカブレーンズ取締役シニアコンサルタント 杉本 亮 様  
(中小企業診断士・CFE・CIA・CCSA)

平成 18 年から J-SOX コンサルに携わり、数多くの上場企業の内部統制整備・運用実務を支援してきた自分にとって、「上級内部統制実務士」という資格は非常に魅力的であり、かつどうしても取得しなくてはならない資格でした。7 月 11 日の資格更新講習会で不正防止・コンプライアンスについて講演を行いました。参加者や講師の皆さまのレベルの高さを肌で感じ、翌月 8 月 30 日の試験を受験することを決意致しました。

1 ヶ月半しか時間が残されていない中で、8 月 8 日の試験対策講座に参加し、指定テキストを 2 回読込み、過去問を 3 回解くくらいのことしか出来ず、あっという間に試験当日を迎えました。試験問題は非常に練られた難問ばかりでしたが、普段から手書きに全く慣れていないため、書きたいことが上手く書けないという予期せぬ状況に陥りました。受験後は模範解答さえ見ることが出来ない精神状態だったため、2 週間後に合格通知が届いた時はかなり驚いたものです。

上級内部統制実務士は、自分の本業でもある経営管理体制構築支援コンサルに直結する資格であり、今後は当資格を中心とした業務活動を展開していく所存です。日本経営調査士協会様および全能連様主催の総会・懇親会・講演会などに積極的に参加する他、有資格者の皆さまとの異業種交流や情報交換などを通して、コンサルの幅や活動の場を広げていきたいと考えています。

### 【活用事例】 上級 IPO 実務士

PwC あらた監査法人 布施恭祐 様 (公認会計士・中小企業診断士)

#### ご挨拶

私は現在、PwC あらた監査法人において、主に上場企業や外資系日本企業に対する会計監査業務に従事しております。また、平成 26 年より、上場準備企業に対する予備調査やアドバイザー、会計監査等の業務に従事しております。また、業務に関連し、公認会計士及び中小企業診断士の資格を保有しています。

#### 資格取得のきっかけ

上級 IPO 実務士試験を受験したきっかけは、平成 26 年より IPO 関係業務に従事することとなったことです。上場企業や外資系企業に対する会計監査が業務の中心であり、上場後の開示制度等に対しては一定の知識を持っていたものの、IPO に係るその他の知識についてはほとんどありませんでした。

そこで、まずは書籍から、ということでもいくつか探していたところ、上級 IPO 実務士試験の公式テキストである『これですべてがわかる IPO の実務』が目に入り、手に取ったところ、当該資格の存在を知りました。その後、当該書籍と所属監査法人での業務をベースに IPO に関する知識がついてきたことから、今回、受験を決心し、資格を取得することができました。

#### 資格の活用

まだ取得したばかりではありますが、所属監査法人へこれを伝えたところ、年間業務計画における IPO 関係業務(上場準備企業への会計監査・アドバイザー・予備調査等)の割合が急増しました。学生の時からの夢であった、「(上場準備企業を含む)中小企業やスタートアップ企業の成長への貢献」に向け、上級 IPO 実務として最高のサービスを提供できるよう、日々精進していきたいと思っております。

### 【活用事例】 上級内部統制実務士

(第 6 回上級内部統制実務士試験合格者様) 中嶋哲郎 様

#### 【資格取得の経緯】

私は現在、金融商品取引法における内部統制報告制度（J-SOX）への対応としての文書化、整備・運用評価、モニタリング、課題改善の支援等の仕事をしています。これらの実務においては、内部統制についての幅広い知識や深い理解が求められるため、次第に、体系的に内部統制について学ぶ必要性を実感し始め、本資格の取得を考えました。

#### 【学習方法】

##### （1）．過去問題の確認

私は実務で内部統制に関わっており、ある程度の実務的な知識が有ったため、まずは過去問題を確認し、問題のレベル感、出題形式、出題ポイント等の大まかなイメージを持ってから、公式テキストの精読を行いました。

##### （2）．公式テキストの精読

公式テキストの精読は試験対策としてはもちろんですが、実務においても公式テキストは、何か不明な事があった時、内部統制の考え方について確認したいことがあった時の参考書としても大変役立つため、常に手元に置いて、その都度、公式テキストで確認するというような使い方をしていました。

##### （3）．試験対策講座の受講

自習だけでは理解が難しい内容を、講師の方に具体例や直近の制度の動向等を踏まえて分かりやすく解説していただけたので、試験に向けての重要な学習ポイントが明確になりました。

#### 【資格取得を検討されている方へ】

資格取得の目的は様々だと思いますが、私の場合は資格取得をするための試験勉強の過程自体が、体系的に内部統制を学び、実務でも役立っている実感を持つことができました。試験なので、合格することが最も重要ですが、公式テキストに沿って学習すること自体がとても有意義なことであると思います。

<事務局>平成 26 年度下期：資格登録の先生方 1 名に御寄稿いただき紹介します。

#### 【活用事例】 上級内部統制実務士

（第 5 回上級内部統制実務士試験合格者様）緒方健太 様

#### 御挨拶

本稿を始めるに当たりまず若干の自己紹介を致します。今回、上級内部統制実務士に登録致しました緒方健太と申します。私は、平成 21 年に弁護士登録を行い、西村あさひ法律事務所という所謂大手総合法律事務所にて企業買収、キャピタル・マーケット、ベンチャー・キャピタル支援、金融レギュレーション、コンプライアンス、税務相談、その他一般企業法務といった分野を中心に業務を行っております。また、平成 25 年 7 月からみずほ証券株式会社に出向し、上記分野に加えて IPO に関する業務等にも携わっております。

#### 上級内部統制実務士資格の利用方法等

内部統制という分野については、様々な観点からのアプローチが可能であると考えられます。例えば、①弁護士等の法律専門家の立場からは、会社法に基づく内部統制システムの整備・運用及びそれを前提とした役員の法的責任に焦点が当てられますし、②公認会計士等の会計専門家の立場からは金融商品取引に基づく内部統制報告書に係る監査に、また、③IPO に関わる専門家の立場からは上場審査を前提とした社内態勢全般の整備・運用に焦点が当てられ、論じられることが多いと思われれます。

そのような意味では、内部統制は、その目的の多様性にも表れているように、複雑な内容を有するものであり、当該内容について上級内部統制実務士資格の勉強を通じてより深く理解することができたということが当該資格の一番のメリットではないかと考えられます。

すなわち、私は、弁護士として、企業ないし企業集団における経営管理といったマクロの内部統制から特定の分野における社内態勢の整備・運用といったミクロの内部統制についてアドバイスを求められることが多く、これまでは専ら法律専門家の立場から意見を述べるが多かった

のですが、上級内部統制実務士資格の勉強を通じて、その他の観点（例えば、上記②及び③の観点）を踏まえてより深く幅広い観点からアドバイスを行うことができるようになったと実感しております。

ご承知のとおり、平成27年5月1日からは改正会社法が施行されております。当該改正においては、内部統制システムを含めた分野における改正が含まれており、当該改正に対する社会的な注目の下、今後内部統制に関する実務に影響が生じてくるものと考えられます（既に私もそのような相談を受ける機会も多くなっております。）。また、（肌感覚となりますが）株式市場の好況に伴いIPOに関する相談も着実に増えており、上場審査を見据えた内部統制の在り方に対する注目も高まっているものと思います。このような社会的状況下において上級内部統制実務士資格の勉強を行うことは、専門家の立場から（また、当然企業の立場からも）非常に有意義であると考えております。

私も当該資格の名に恥じぬよう、今後も研鑽を続け、内部統制に関するより良いアドバイス等を行うことができるように実務家として積極的に取り組んで参りたいと思います。

<事務局>平成25年度下期：資格登録の先生方1名に御寄稿いただき紹介します。

### 【活用事例】上級内部統制実務士

（第3回上級内部統制実務士試験合格者様）山島弘展様

#### 資格取得のきっかけ

私は現在、金融機関の経理部門で働いており、資格に関連する職務としては、決算・財務報告プロセスに係る内部統制の整備・運用を行っています。内部統制について体系的に勉強したいと考えていたところ、この資格の存在を知り、取得を目指すにいたりしました。

#### 学習方法

ご参考までに私の学習方法を時系列でご紹介します。

##### （1）公式テキストの通読

試験対策講座の受講前に公式テキストをじっくり読みました。対策講座を充実したものにすることも、受講前に読み終え、どのへんが分からないのかを整理しておくことをお勧めします。

##### （2）試験対策講座の受講

試験合格のためには受講は必須だと思います。広範な試験範囲の中での重要項目も分かりますし、テキストを読むだけでは理解が難しい点を講師の方が分かりやすく説明して下さいます。

##### （3）過去問題の確認

出題形式を把握する目的で過去問題を確認しました。標準資格と違い実施回数がまだ少ないため過去問題から出題傾向をつかむのは難しいと思いました。

##### （4）公式テキストの再確認

対策講座の受講と過去問題の確認を踏まえて公式テキストを再確認しました。自分なりに出題されそうな分野を予想し重点的に学習しました。

#### これから資格取得を目指される方へ

私は今回、運よく合格できましたが、仮に不合格だったとしても、合格するまで受験を続けるつもりでした。なぜなら、試験勉強を通じて内部統制に関する理解を深められると感じたからです。試験勉強と実務が直結しない資格が多い中、この資格は実務に直結したよい資格だと思います。これから資格取得を目指される方には、目の前の合否に一喜一憂することなく楽しみながらじっくり学習して欲しいと思います。

<事務局>平成25年度上期：資格登録の先生方2名に御寄稿いただき紹介します。なお、平成26年度の（公社）全日本能率連盟発刊の資格一覧に収録して発刊いたします。

## 【活用事例】 上級内部統制実務士

日本ユニシス株式会社 経営企画部グループ内部統制室 兼古昌明 様

### 御挨拶

私は現在、以下のような業務に従事しています。

- ①会社法における内部統制
  - ・内部統制システムの文書整備・経営者への状況報告・取締役会決議用資料の準備
- ②財務報告における内部統制
  - ・対応体制の整備・評価範囲の選定・3点セットの整備支援・外部監査人の問合せ窓口
- ③社内規程類の一元管理
  - ・制定、改廃の支援・一元管理システムへの規程類登録、更新

### 資格の活用

上級内部統制実務士の学習内容は、上記業務と重なる点が多く、私にとっては好都合かつタイムリーな受験となりました。特にコーポレート・ガバナンスと内部統制の関係性や、決算・財務報告プロセスにおけるアサーションの捉え方などの理解が深まった事は有意義でした。

会社法や金商法等の対応は、社会的責任を持つ組織体として極めて重要である一方、経営マターとしてみれば必ずしも優先度が高いとはいえない場合があります。

法の施行時には、皆が高い意識を持っていても、年を経るごとに形骸化の傾向が現れてきます。形骸化を防ぐためには、「内部統制は社員一人ひとりが当事者であり、各々が社会的責任を担っているのだ」という意識を持ってもらうことが重要で、そのための活動も併せて実践しています。

例として、eラーニングシステムを活用した内部統制の教育を毎年行っています。

これは「適正な財務報告を行うために」というタイトルのコンテンツで、経営者、派遣社員含めグループ社員約1万人が受講するコースとなっています。今年度はさらに教育範囲を広げ、財務報告の信頼性だけではなく、内部統制全般にわたる内容として再編中です。

また、社内規程類のあり方を見直し、それらを企業人育成のツールとして活用できないかどうか検討中です。規程類を、法律の条文のような無味乾燥なものから、日々のビジネスの中で活用できるような存在へと変えていきたいと考えています。

以上、簡単に紹介させていただきましたが、これからも上級内部統制実務士の名に恥じぬよう精進して参ります。

## 【活用事例】 上級IPO実務士

武市経営研究所 代表 武市顕義 様

### ライフワークとしてのIPO支援に向けて

#### 御挨拶

私は、大学卒業後大手の造船重機メーカーで、船舶の輸出営業や航空機のマーケティングの仕事に従事してきました。その後、いくつかの会社において株式上場（IPO）関係業務及び総務、人事、経営企画等の管理部門業務を役員、部門長、上場準備プロジェクト責任者、実務担当者の立場で従事してきました。

このような経歴を通じて、私はIPO関係の業務に大変やりがいを感じるとともに、ライフワークとして生涯現役でIPOに係る仕事に携わっていきたく思うようになりました。

平成22年にある証券会社の方から「IPO・内部統制実務士」の資格認定試験を紹介され、受験し、同資格を取得することが出来ました。その後、「上級IPO実務士」という上級資格が創設されたことを知り、ライフワークを続けていくためには、IPO支援・指導業務を遂行するための専門資格を取得する必要があると考え、平成25年9月に第2回上級試験を受験しました。今回なんとか合格出来たのは本当に幸運であり、大変嬉しく思っています。

#### 資格の活用

現在、私は、IPOを目指すベンチャー企業で、顧問・コンサルタントとして、内部管理体制整備等の実務支援を行っていますが、今後とも「上級IPO実務士」の資格を有効に活用し、IPO支援等を通じて、中小・ベンチャー企業等が上場企業として世に羽ばたくために少しでも貢献が出来ればと思っています。

最後になりますが、今回受験して感じた受験対策上の留意点（反省点も含めて）としては、①公式テキストを何度も読み、理解し、重要事項を暗記する（400ページ以上のボリュームがあるので結構大変）、②記述問題が多く回答に時間がかかるので、各問題解答の時間配分に注意する（3時間の受験時間が足りなくなってしまう。）、③記述問題対策として、要領よく回答出来るように重要事項の想定問題を作成し、答案練習をする、④事前勉強を前提として直前試験対策講座を是非とも受講すること等が重要だと思います。これらは一般的なことかもしれませんが、少しでもご参考になれば幸いです。

<事務局>平成24年度下期：資格登録の先生方2名に御寄稿いただき紹介します。なお、平成25年度の（公社）全日本能率連盟発刊の資格一覧に収録して発刊いたしました。

### 【活用事例】上級内部統制実務士

ウィザーズ国際法律事務所 代表弁護士 弁護士・公認会計士・公認不正検査士・  
上級内部統制実務士・IPO内部統制実務士 尾高雅美 様

#### 御挨拶

私は、現在、弁護士・公認会計士・公認不正検査士・上級IPO内部統制実務士として、企業法務全般・コンプライアンス・事業リスクマネジメント体制構築・運用などにかかるアドバイザリー業務に従事しています。以前、大手監査法人勤務時に、株式上場準備等の業務にも従事しており、内部統制についてはある程度馴染みはありました。

#### 内部統制の課題・上級内部統制実務士資格

しかし、会社法や金融商品取引法に基づき内部統制（システム）が導入された後も、特に近時は様々な企業不正・不祥事等が発生しており、また、導入・維持コスト等も含め内部統制の効果・実効性等に疑問も生じている現状に鑑みるに、「内部統制」の意義等について再確認等を行った上で、より効果的かつ実践的な内部統制を企業経営に生かすことの必要性を、強く意識するようになりました。そんな中、一般社団法人日本経営調査士協会が主催する「上級内部統制実務士」資格ができたため、受験した上でこの資格を取得しました。受験に際しては、内部統制の整備・運用、可視化、ITに係る内部統制、内部統制の評価・有効性判断等、財務報告に係る内部統制の広汎な部分を再認識することになりました。

#### 資格の活用

リスクマネジメントを意識し、不祥事対策等も考えていかなければならない近時の経営環境のもとにおいて、実践的・効果的な内部統制等を導入し活用していくことは必須と考えます。私は、この「上級内部統制実務士」の資格を生かし、内部統制の意義・あるべき姿等を再認識し、顧客企業等の経営機構内部により実務的・実効的な内部統制を導入・運用することにより、リスクマネジメントに資し、顧客企業の経営品質を向上できるようなアドバイスを継続して提供してゆきたいと考えています。

### 【活用事例】上級IPO実務士

一般社団法人日本半導体ベンチャー協会 監事 詫摩武裕 様

#### 御挨拶

標準「IPO・内部統制実務士」の資格を私は昨年9月に取得していましたが、平成25年3月の第1回上級試験に幸い合格して、更に「上級IPO実務士」になることができたことは、私にとって大変喜ばしく誇りに思っています。

私は銀行とその子会社のベンチャー・キャピタルに定年まで勤め、今はベンチャー企業を会員とする一般社団法人の役員を務める傍ら、ベンチャー企業の顧問やコンサルタントとして働いています。私は、ベンチャー・キャピタルはもとより銀行時代も含め、長い間ベンチャー企業を顧客として、その成長に協力する仕事をしてきました。しかし私の経歴を説明するだけでは、金融機関の一員としてベンチャー企業に外から関与してきたことを示すことはできても、新規株式公開に関する実務知識が十分であることを示すことはできません。

上級IPO実務士の資格は、新規株式公開を目指す企業の上場準備責任者が職務として遂行するIPOの実務のために必要な専門知識を資格認定の基準としています。加えてこの資格の維持には、資格更新のための講習会等の受講が必要です。従って、私が関与するベンチャー企業に対しては、上級IPO実務士の資格によって、私のIPOの実務知識が上場準備責任者の職責を務められる水準にあり、且つ私が常に講習会等と同じ最新で有用な業務情報を修得していることを示すことができます。

今後は私の関与先企業の役員の方々には、上場準備の過程で、私のIPOに関する意見や提案をより大きな信頼感と安心感をもって受け止めてもらえるものと期待しています。私としては、これからは上級IPO実務士の資格を有効に活用し、ベンチャー企業のIPOを支援する様々な業務に取り組み、仕事の幅と深みを増していきたいと思っています。